

令和7年度事業報告

I 概 要

令和7年度を振り返りますと、年度始めの令和7年4月13日に人口島・夢洲において、「万国博覧会」が開催されました。本万博は、1970年に開催された大阪万国博覧会以来、55年ぶり、日本を含め158の国・地域が参加し「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに10月13日までの184日間の会期中に来場者数2,557万人（延人数）に達したと報告されております。会員の皆様方におかれましては、前回(55年前)と今回を来場し、万博ならではの貴重な見学・体験を2度されたことと思います。跡地の活用については、万博の遺産をどのように引き継ぐかが焦点と言われています。

一方、日本全国で猛暑日の連続記録更新、山火事、大雨被害、熊被害等全国で様々な被害に悩まされた年でもありました。

さて、国内の経済状況に目を向けますと、経済面における令和7年4月の月例報告では、景気は緩やかに回復しているが米国の通商政策等による不低迷感がみられると報告されていましたが、令和8年3月の月例報告には中東情勢の影響を注視する必要があるとされ、先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が穏やかな回復を支えることが期待されると分析されておりました。

昨年内閣府が発表した2024年の名目国内総生産（GDP）は609兆2,887億円であり、通年で初めて600兆円台になりましたが、2023年度同様円安が進んだことからドル換算では昨年度と同様第4位でした。

一方、所得環境の改善の一施策として、2025年10月には東京都の最低賃金が1,226円となり昨年同月の最低賃金から63円引き上げられました。政府は2029年までに最低賃金を1,500円にする目標数値としているため、今後も賃金は上昇していく予想はしていますが、コメを始めあらゆる諸物価高騰もあり、生活環境の実質的豊かさを感じているとは言い切れない状況が続いている1年でした。

そのような中、我が国の総人口（総務省統計局2025年10月1日現在令和2年国勢調査を基準とする確定値）の総人口は、1億2,321万9千人で前年同月に比べ0.47%、58万3千人が減少しており、65歳以上の高齢者人口は、3,622万1千人で前年同月に比べ、0.06%、2万3千人減少しま

した。うち 75 歳以上人口は 2,127 万 3 千人で前年同月に比べ、2.39%、49 万 6 千人増加となり、人口数を更新しております。65 歳以上の総人口に占める割合は 29.4%で、この割合は今後も上昇を続けると見込まれています。

西東京市の人口は、令和 8 年 3 月 1 日現在で 20 万 7,097 人（前年同月 20 万 6,064 人）となりました。この内 65 歳以上の人口は 5 万 1,255 人（前年同月 5 万 597 人）で人口に占める割合は 24.8%（前年同月 25.6%）となりました。

当センターへの粗入会率（市内 60 歳以上人口に占める会員数の割合）はこの 5 年間 1.9%～1.7%で推移しており、平成 25 年から令和 4 年度の過去 10 年間の会員数は減となっておりますが、令和 5 年度・令和 6 年度・令和 7 年度の 3 年間は増加となりました。

また、当センターの平均年齢（令和 8 年 3 月末現在）は 75.9 歳（前年同月 76.0 歳）で、男性 76.2 歳（前年同月 76.3 歳）、女性 75.6 歳（前年同月 75.5 歳）と、引き続き高年齢化の傾向が見られます。

年齢別構成を見ましても、60～64 歳が 4.5%（前年同月 4.0%）、65 歳～69 歳が 13.4%（前年同月 11.9%）、70 歳～74 歳が 24.6%（前年同月 26.7%）、75 歳～79 歳が 32.2%（前年同月 31.0%）、80 歳以上が 25.3%（前年同月 26.4%）、75 歳以上が合計、57.5%（前年同月 57.4%）で会員の過半数を超える方が 75 歳以上という状況となっています。

これは、いわゆる「2025 年問題」と言われ、団塊の世代が 2025 年までに 75 歳以上の後期高齢者となる事が主な原因とされています。また、65 歳までの雇用継続の義務化や 70 歳までの雇用の努力義務等によるものと考えられます。

社会経済活動が元の状態へもどりつつあるとはいえ、エネルギーや食料品価格等の世界的な物価高騰等や急な為替変動の影響により、高齢者を取り巻く経済環境は厳しい状況になってきております。

当センターにおきましては、インボイスの消費税の負担につきましては、発注者のご理解もあり、令和 6 年度から事務費の値上げを発注へお願いし、令和 7 年度においても引き続き事務費に対するご理解を得ることができました。一方、令和 6 年 11 月 1 日から施行されました新たな契約方法による就

業、いわゆるフリーランス法が導入されることにより、発注者様との契約方法についても、見直しが余儀なくされ、各方面にご説明をしている中で、令和 8 年度への契約方法の見直しにつきまして、概ね変更することができるとなりました。しかしながら、民間企業における AI 化が進む中で、機械化・無人化を進めている企業が多くあると聞いており、契約実績は厳しい状況が続いております。来年度はさらに工夫を凝らしながら、既存の発注者様の契約維持はもとより、新規就業開拓が喫緊の課題となっております。

会員獲得のため、従来通りアスタセンターコートでの活動紹介フェア、市のご協力によりイングビル 1 階における活動紹介、これからシルバー応援フェスタ、月例会説明会、出張説明会、女性限定入会説明会等を行い、会員の拡充に努めてまいりました。これらの活動により、会員数は前年度より増加し、第 4 次中期計画の目標を達成しました。

令和 7 年度中の中入会者は 235 人、男性 124 人、女性 79 人、未回答 32 人、退会者は 202 人で、差し引き 33 人増となり年度末会員数は 1,188 人となりました。受託事業の状況は、受託件数 4,835 件（対前年度比 0.5%、25 件の減）、就業延人員 142,108 人（対前年度比 0.7%、982 人の減）となりました。また、年度中の就業実人員は 978 人、就業率 82.3%で契約金額は約 488,111 千円（対前年度比 2.2%、11,160 千円の減）となり、会員数は増加しましたが、契約金額は減少となりました。会員の増強については 5 月と 10 月にアスタセンターコートで、7 月、3 月にイングビルにて活動紹介フェアを実施しました。就業開拓については、請負契約 7 件、派遣事業（既存先 2 件）がありました。安全対策としては、安全パトロールを実施しました。フレイル予防につきましても感染防止対策を図り、5 回実施しています。ボランティア活動については、環境美化活動「ごみゼロ運動」、「田無駅踏切見守り活動」、「年末特別警戒パトロール」、「地域合同パトロール」、「東京マラソン」などを実施しました。

また、令和 7 年度には、4 年連続で、市から「第 4 回にしとうきょう環境アワード」の表彰を受けました。これは、当センターの家具リサイクル、和洋服リフォーム、華工房などの事業及び環境美化活

動に多くの会員の皆様が参加していることなど、環境配慮への高い意識や積極的に環境活動をしていることが評価されたものです。

2 基本方針

当センターでは令和6年度に第4次計画の「中期計画」をスタートさせ、この計画を基に事業を進めておりますが、各目標達成のため工夫をしながら事業展開を進めてまいりました。この計画における4本の重点目標と12の推進項目を掲げており、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと、就業の推進、生きがいの充実や健康維持、生活の安定、そして地域社会への貢献を目指して進めてまいりました。

3 事業実施状況

☆☆☆ 重点目標を達成するための令和7年度（2025年度）事業実施計画 ☆☆☆

I 会員の強化と能力向上

活動内容としては、①アスタセンターコートで活動紹介フェアを5月と10月、イングビルで7月、3月②市民文化祭参加を10月、チラシの配布等PR活動を積極的行いました。社会活動も徐々に活発化し、入会説明会の参加者の増加とともに、会員数も徐々に回復しつつありました。

（1）会員の拡大

- ① 入会説明会を26回（参加者291名）実施しました。
- ② うち公民館等を利用した出張入会説明会は13回実施しました。
- ③ ロコミ等による加入促進のため、高齢者クラブや地域協力ネットワークへ出向き、地域の団体等と顔の見える関係づくりを行っております。
- ④ 活動紹介フェアの開催に合わせ、入会説明会等会員募集のチラシを9回行いました。
- ⑤ 未就業者の状況や意向を把握するために、職種や就業者不足職場の状況を確認しました。
- ⑥ アスタセンターコートでの活動紹介フェアに5月427名、10月436名、イングビルで7月、3月に80名の来場者がありました。
- ⑦ 市民まつりは2日間で89,000名の来場者がありました。市民文化祭は3日間で952名の来場者がありました。
- ⑧ 未就業者状況の把握と就業斡旋の方法は、smile to smile掲載累計88件（複数回掲載を含む。）掲載し周知を行いました。希望就業先と就業先数確保には引き続き取り組む必要があります。

（2）会員の能力向上

市の人口（令和8年2月28日現在の高齢者人口（60歳以上）65,436人）に対する当センターへの粗入会率は1.82%、会員の平均年齢は76.1歳です。

① センター主催

- A 新入会員研修 20 回実施、201 人参加
- B 新就業者研修 2 回実施、17 人参加 職場ごとに既就業者から説明等
- C 会員接遇研修 2 回実施
- D 地域班長会議 3 回実施
- E 新地域班長研修 1 回
- F 職群リーダー（サブリーダー）会議 1 回
- G 仕事別グループ就業者会議 2 回
- H 女性会員の集い 2 回

② 第5ブロック主催

- A 会員研修 1 回 9 名参加（うち職員 1 名）
- B 安全研修 1 回（安全就業推進の集い）
- C 役員研修 1 回 9 名参加（うち職員 1 名）

(3) 高齢会員の対応

- ① 新規独自事業の立ち上げから、進捗管理、存続までに至る考え方を整理し、規定整備の検討を引き続き行います。
- ② 就業を希望する方の就業規制緩和を公募の中で対応しています。地域との接点を感じられるボランティア活動の模索をしています。健康維持や自己啓発、趣味やサークル等シルバーニュース『声』の募集をして引き続きご紹介をしています。

(4) 女性会員の増強

- ① 女性限定の入会説明会を 3 回実施し、10 名入会しました。
- ② 女性限定の入会説明会にあたり、関係する委員会が協力し取り組みました。

(5) ボランティア活動の充実

ボランティア活動として、以下のものに参加し、地域に貢献するとともにセンター活動を PR しました。

- ・市主催等の環境美化活動「ごみゼロ運動」に参加しました。
(5 月 31 日参加者 398 名、9 月 27 日 参加者 445 名 計 843 名)
- ・安全安心なまちづくりのため、地域合同パトロールに防犯協力団体として参加しました。
(4 月 21 日参加者 62 名、10 月 14 日 参加者 70 名 計 132 名)
- ・田無駅踏切の事故防止として踏切見守りボランティアを実施しました。
(4 月 7 日～15 日参加者 42 名、9 月 22 日～30 日 参加者 36 名 計 78 名)
- ・「東京マラソン」開催にあたり、会場での観客整理・案内活動ボランティアに参加しました。
(3 月 1 日参加者 11 名)
- ・まちの美化市民会議に参加し、西武鉄道の市内 5 駅で各 1 回行われた「路上喫煙・ポイ捨て防止」キャンペーンに協力しました。
- ・「明保中どんと焼き」にて、会場での駐輪場整理ボランティアに参加しました。(1 月 11 日参加者 3 名)、「上向台小どんと焼き」にてお焚き上げの補助ボランティア活動を行いました。(1 月 17 日参加者 21 名)

2 就業機会の強化

令和7年度の新たな就業先として、新規の契約は7件です。

(1) 就業先の開拓

- ① 就業相談会5回、参加者35名。新入会員の希望職種、未就業者の把握調査を実施。
- ② 就業開拓の進捗状況、情報整理・共有、契約方法の検討等を行いました。
- ③ smile to smileの活用 掲載累計88件、日常的に事務管理システムによる就業紹介活用しています。就業希望のマッチングについては、引き続き情報収集と就業募集情報の提供を行います。

(2) 労働者派遣事業の取組み

一般労働者派遣事業 既存先2社2件、延べ2名就業しました。

(3) 会員の技術、技能の向上

東京しごと財団等外部からの指導は、安全指導1回、補助金実地調査1回があり、改善検討、是正対策を講じました。

(4) 介護、生活支援事業の取組み

市の70歳～80歳もの忘れ予防検診の案内、市の「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」への協力、フレイルチェック情報の大学への協力等の連携を行いました。

(5) 独自事業の開拓・充実

- ① 売り上げ⑦教室 前年比 7.3%増、①家具リサイクル前年比 1.4%減、⑦和洋服リフォーム前年比 7.2%減、⑤華工房前年比 16.6%増
- ② 家具リサイクル、和洋服リフォーム、華工房などの事業が、環境配慮への高い意識や積極的に環境活動をしていることについて評価され、これまで、4年間連続して「にしとうきょう環境アワード」の奨励賞を授賞しました。
- ③ 高齢者の生きがいの充実と活力ある地域社会づくりに貢献するため、市の事業である“いこい～なサロン”を開催し、令和7年度は11回231名の参加がありました。
- ④ 東京しごと財団におけるシルバー活性化促進事業支援補助金を活用し、東伏見作業所内に令和8年1月から茶道教室を開講し、体験教室5回に延べ29人の参加がありました。

3 安全・適正就業の推進

(1) 安全就業の推進

- ① 安全講習会1回、安全パトロール5回、5職種、25箇所を実施しました。
- ② シルバーニュースの安全コラム2件、事故情報の提供11件、安全ちらし2回、安全就業標語の応募者数は36名、応募件数は73件です。
- ③ 就業途上等の自転車事故1件、自転車安全講習会参加1回
- ④ 健康診断・特定健診の受診奨励 未実施
- ⑤ フレイルチェック5回、参加者24名。フレイルチェック情報の大学への協力をしました。
- ⑥ 普通救命(AED)講習1回、参加者13名
- ⑦ 会員の熱中症対策として、塩タブレット支給および空調ジャケット購入者への助成金交付を実施しました。

(2) 適正就業の推進

- ① 請負契約の内容点検、修正
- ② 契約内容の仕様内容協議
- ③ 就業先の現地確認 随時
- ④ 公募による調査に基づき、必要に応じて職場ごとに就業制限緩和策を対応
学校関係の年齢制限撤廃を行い、80歳以上の就業者には全員面接を実施しました

(3) フレイル予防の推進

- ① フレイルチェック実施5回、参加者24名
- ② フレイルチェック情報の大学への協力をしました。

4 組織の充実と活性化

新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて、総会、理事会、委員会、地域班長会議を開催しました。

(1) 運営組織の充実

- ① 理事会定例会12回・臨時会1回
- ② 三役会12回、各委員会82回開催
- ③ 理事会の規程等の改廃改正
- ④ 就業相談5回、参加者35名
- ⑤ 班長会議提案項目の検討
- ⑥ Smile to Smile 登録相談会

(2) 事務局組織の充実

事務処理については、監事監査、しごと財団指導、東京都現地調査及び市による指導・指摘を受け、改善策を講じて参りました。会員の皆様のご指摘・ご要望なども参考に、事務局機能の向上を行うための担当者別研修の積極的参加をしました。

- ① ジョブローテーションを行うことで、後任者への引き継ぎ書及び事務マニュアルの作成の必性、新たな業務に対する知識の向上、組織内の体制の構築を努力してまいりました。
- ② 職場の環境整備、職位に応じた役割を理解し、事業の推進を図ることができるよう考え方をまとめ、職員間で共有しました。
- ③ smile to smile 就業募集情報の掲載累計88件、smile to smile 登録者数911件
- ④ 職員研修は、東京しごと財団研修15回参加者延べ18名、第5地域シルバー人材センター研修参加者2回4名、民間等その他研修2回延べ2名
- ⑤ 他団体との連絡連携 西東京市：調整・協議 随時（契約事業を含む。）、公益財団法人東京しごと財団：会議、研修、検査、指導等 随時、第5地域シルバー人材センター：会議、研修、連絡 随時、シルボンヌ全国大会2025inみやぎ
- ⑥ 会員への対応についての課題も見受けられ、意思疎通が図れるように継続した指導・助言を行います。

(3) 広報活動の充実

一層当センターの事業内容を知っていただけるよう、次の普及活動を行いました。

区 分	説 明
広報紙「きずな」の発行	年4回発行（4月・7月・10月・1月）
PRパンフレット・チラシの制作	公共施設窓口への設置 チラシ配布 年9回実施（5月・6月(2回)・8月・9月・10月・11月・1月・2月） シルバーパンフレット全戸配布実施（12月）
市報等刊行物の活用	西東京市ごみ資源物収集カレンダー 介護保険と高齢者福祉の手引き 広報にしとうきょう 12月15日号
普及宣伝	○市民まつり いこいの森公園 ○市民文化祭 柳沢公民館 作品展示、体験コーナー ○ボランティア活動 地域合同パトロール、環境美化活動「ごみゼロ運動」、田無駅前踏切見守り活動、年末特別警戒パトロール、どんど焼き、東京マラソン等 ○活動紹介フェア アスタセンターコート 2回開催 ○就業活動フェア イングビル1階 2回開催 ○相談会の実施 活動紹介フェアでの会員募集相談会 ○各種イベント参加 自転車安全講習会参加、商店会夏祭り関連業務受注、シニアしごとEXPO2025 参加、Tokyo シルバー50 周年フェス参加、令和7年度ともに生きるまちづくりフェス参加
掲示板の活用	市内掲示板の掲示として71か所 各種教室案内12回

(4) 財政基盤の確立

厳しい補助金交付額の中で、経常経費の見直しを図り経費の節減に努めました。